

②御食国ひょうごを支える農林水産業（その2）

手間暇をかけて露地で栽培した農産物が美味しさと安全安心でブランド化し、兵庫の農林水産物が各国に輸出されるとともに、ICT（情報通信技術）を活用した植物工場での自動生産が普及するなど、産業としての力強い農林水産業が展開されている。また、豊富な生産力で地産地消が進み、兵庫の豊かな食材が県民の健康的な食生活を支えている。

2040年の生活シーン

<プロフィール>

- 40代の男性。播磨の多自然地域に両親、妻、子どもと住み、専業農家として生計を立てている。
- 生まれ育ったこの地域が好きで、大学に通う間は一時期離れたものの、卒業後は実家に戻って家業の農業を継いだ。中学の同級生だった妻との間に生まれた3人の子どもたちは、ふるさとの自然の中でのびのびと育っている。

<地産地消>

- 私は、家で作る新鮮な農産物を食べて育ったので、大学に通っていた頃は都会で売られている野菜が味気なくて仕方がなかった。農業を継いでからは、地域内の他の農家と農業法人を設立して有機農業に取り組んでおり、この地域の自然の恵みをいっぱい受けた農産物の地産地消を進めている。
- 農業法人では地域の各家庭と契約を結び、ネット注文を受けて、取れたての農産物を届けているほか、最近は都市部への宅配も始めた。品揃えを増やすために、新たな品種の栽培にも取り組んでおり、消費者の反応を見ながら生産品目を拡大している。
- 法人の経営基盤を固め、地域に雇用を生み出すために、6次産業化も進めている。旬の果物や野菜を使った手作りジャムやペーストは、全国発送もしており、季節ごとに数十種類を取り揃えた商品を楽しみにしている人が多い。

<食育>

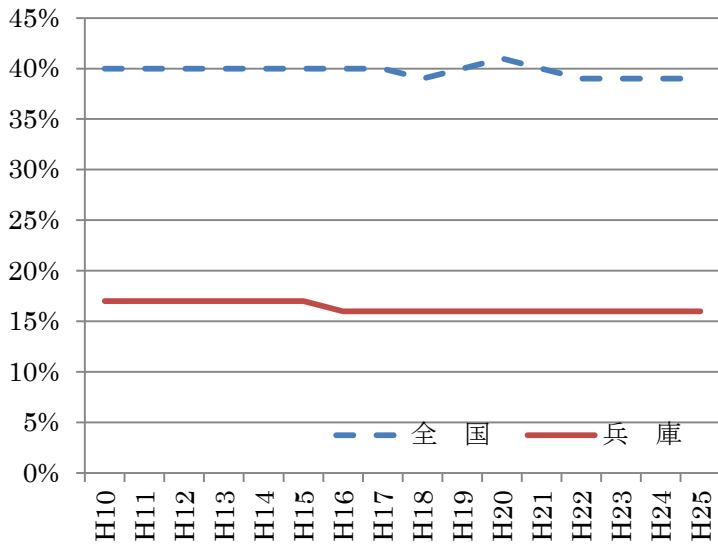
- 私たちの農業法人では、子どもたちへの食育にも力を入れている。地元の小学校を対象に実施している農業体験教室では、地元名産のそばの作付けから収穫までを体験してもらっている。
- 学校給食では、毎日のように、農業法人が収穫した野菜を使った料理が並ぶ。それに、子どもたちが育てたそばの実で打ったそばと、地元の山で狩猟されたジビエ料理が加わる特別献立は、年に1回のお楽しみだ。ふるさとの味がみんな大好きで、地元の食文化がしっかりと受け継がれればと願っている。

<クラウドファンディング>

- 地産地消の農産物や加工品の売れ行きが好評なので、耕作放棄地を借り受け、農地を拡大することにした。子どもたちへの食育の取組を含めて、クラウドファンディングで資金提供の呼びかけを行ったところ、ジャムの優先購入権を付けたこともあり、予想を超える資金が集まった。
- 資金を提供してくれた人たちの期待を裏切らないよう、これからもこの土地に根ざした美味しい農産物を作っていきたい。

現状や課題

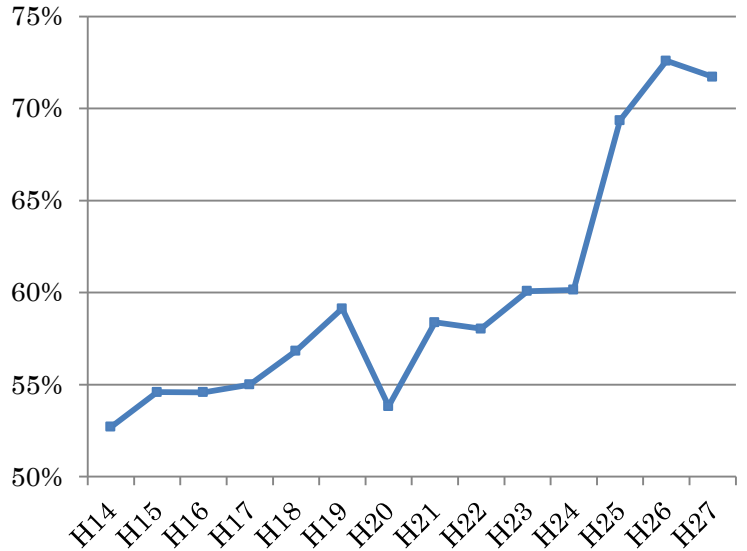
【食料自給率の推移(カロリーベース)(国・県)】



(出典：農林水産省「都道府県別食料自給率の推移」を基に県ビジョン課作成)

【地産地消の状況】

○地元や県内でとれた農産物を買う人の割合



(出典：兵庫県「県民意識調査結果」)

見えてきた兆し

【兵庫県認証食品】

兵庫県認証食品には2つのブランドがあります。



ひょうご安心ブランド

化学農薬や化学肥料の使用を半分以上減らし、残留農薬を国の基準の1/10以下とする等、厳しい基準を満たした食品です。

ひょうご推奨ブランド

化学肥料・農薬3割低減など生産方法や品質に個性や特長、地域性があり、かつ食品衛生法等の遵守を兵庫県が確認した食品です。



(出典：兵庫県 HP)

【食育の事例】



栽培漁業のパフレットを使って育成されている稚魚を見学。漁協の職員が、食卓にのぼる地元の水産物がどのような方法で漁獲されるのか、また、それらの水産資源を維持するための栽培漁業センターでの稚魚育成や放流の取組を説明

(出典：兵庫県「食育月間(6月)」の取組状況)

【専門家等の意見】

- 農業振興を考えると、もう少し加工や外食産業に県産物を買ってもらい、利用してもらい施策も必要ではないか (H27.8.28 農林水産政策審議会 第8回企画部会 議事録)。
- 地に足がついた消費をする人たちは5%程度で、それをいかに20%位まで持っていけるかどうかというのが、高コスト・低収入の園芸農業の生きる道である (H27.8.28 農林水産政策審議会 第8回企画部会 議事録)。
- 兵庫の都市部に、農村で朝採れた野菜を売る場所がたくさんあってもよい。